

令和5年度 入学試験問題

小論文

(芸術・スポーツ文化学科スポーツ文化専攻アウトドア・ライフコース 一般選抜(前期日程))

【解答例(出題の意図を含む)】

出題の意図

環境問題の解決にあたるファシリテーターには、原案を提示したり議論を正しい方向に導いたりするリーダーシップ性よりも、多様な価値観を持つステークホルダー同士が課題を共有して合意形成する過程を支援する姿勢がもとめられる。本問は、議論を支援するために必要となる「他者の考えを整理する力」や「意見交換と具体案づくりの支援のために必要なことを考える力」をみるものである。

問1

解答例 各20点

勇二…「たのんで参加してもらった光男に申し訳ない」(20文字)

光男…「本当はやりたいが迷惑になるので遠慮する」(19文字)

明男…「いっしょに楽しく遊べる人だけで遊びたい」(19文字)

和也…「1人だけ違うルールにするのは逆に不公平だ」(20文字)

出題の意図

合意形成のための相互理解のために、「他者の考えを端的に整理する力」をみるものである。

問2

出題の意図

議論をファシリテートする際に必要な「意見交換と具体案づくりの支援のために必要なことを考える力」をみるものである。

(公開用文章はここまで)

## 解答例

こどもたちの考えは膠着状態となっており、どの考えも間違っているとはいえず、こどもたちだけで自分の意見や他人の意見をうまく整理して解決策を見出すのは少し難しい状況である。そのため、支援者として介入することが必要と考えられるが、合意は「形成はしてあげる」ものではなく、「自分たちで形成させるもの」でなければならない。したがって、支援者がよい解決策を提示してその案に納得して賛同させるのではなく、合意形成の方法を示して自分たちで解決できるようにすると良いと思われる。そのためには、全員が他者の価値観や心情を理解して、目指すべきゴールを共有する必要がある。そこで、まず他者の考えを共有するために、問1で整理したような個々人の思いを受容的にとらえ、どれも間違った考えではないのだから、その後の議論は間違った意見を是正させるためのものではないことを理解してもらおう。次に、この場合のゴールは「全員が楽しくカンケリで遊ぶこと」であることを認識してもらい、誰かを排除して残りが幸福感を得るという方法では、このゴールには到達できないことを意識してもらおうようにする。その後、「楽しくかつ不公平に感じない新しいルールを考えよう」という条件下での話し合いを行うよう提案し、その条件がクリアされればゴール、すなわち合意形成が可能となることを理解した上での話し合いをすすめてもらう。必要であれば、「4人がそれぞれに考えたルールで一回ずつやってみてはどうか?」とか「活動範囲を制限すれば体力差が影響しづらいのでは?」など、ゴールに近づくためのヒントを示しつつ、解決策を自分たちで見出させるように支援するとよいのではないかと考える。

(699文字)